

名古屋丸の内ロータリークラブ Weekly Report

藤田守彦 会長 年度テーマ
=先人に感謝、今日から、そして明日へ=
ホップ、ステップ、ジャンプ!!

例会場 名古屋クレストンホテル

TEL 052-264-8000

例会日時 木曜日 12:30

プログラム・クラブ会報広報委員長 岩田 宏



創立 1995年3月9日
承認 1995年3月28日
会長 藤田 守彦
幹事 田島 陽介

事務局 名古屋市中区栄3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007号

TEL 052-263-1324

FAX 052-263-0730

Mail rc.nagoya-marunouchi@waltz.ocn.ne.jp

HP <http://www.nagoya-marunouchi-rc.org/>

第842回 例会No. 26 平成 25年1月24日(木) 晴

■ ローターソング	「それこそロータリー」
■ 出席報告	会員43名中26名出席
■ 出席率	61.90% 出席計算人数42名
■ 修正出席率	1月10日 95.24%
■ スピーカー	佐藤 賢 様
■ ゲスト	立石さんゲスト 松本太一 様 川原さんゲスト 山崎彰子 様

会長挨拶

藤田守彦

皆さん、こんにちは。今日は「カーナビゲーション」の御話をしたいと思います。カーナビは1970年頃から構想開発が始まりました、今ではカーナビは当たり前となり装着率は相当なものです。私の叔父がクラウンに出始めの頃のカーナビを装着しており、私も運転しながら操作をしましたが、今と違って「声」も出さず只現在地を示す程度のものでした。それはGPSではなく車輪の回転数により数値計算をして現在地を求めるものでした。

特に地下駐車場に入る時は「旋回」をして入る為、狂ってしまい駐車場を出る度に現在地修正をしたものでした。同じく立体駐車場に入り車が回転すると同じく修整が必要でした。また大容量のHDDがなく、遠方に行く時は県境で「ディスク」を一回、一回入れ替えて使用したものです。

それに比べれば、今日のカーナビの進化は今更言うまでもなく、凄いというべきか、素晴らしい発展を遂げています。到着時間、渋滞情報、など至りつくせりの情報が取り出す事が出来ます。ただこれとても、データが古くは何もなりません。道路は整備をされて新しくなっています。出来れば2年位でデータの入れ替えをお勧めします。そうすると車が海に上を走る事も無くなると思います。もう一つ、よく知った場所に行く時はカーナビを使用しませんが、一度試しに「目的地」設定してみてください。私も一昨日ですが、早く行けないかと設定しましたら、新しい道を発見する事が出来ました。

また変わった景色も見ることが出来ます。是非お楽しみ下さい。

日本の技術は世界一ですね。世界二位では駄目ですね。

ニコBOX

●本日は愛知県立名古屋壘学校校長の佐藤 賢様をお招きしています。佐藤様、ようこそお越し下さいました。会員一同心より歓迎申し上げます。

安江、柴田孝一、若原、堀江、水野、金子、矢野、藤野、中嶋、河原、吉田、長谷川、伊藤、森田、立石(敬称略)

岩田さん 壘学校へのご支援にご理解の程、よろしくお願い致します。

川原さん 本日、松本太一さん、山崎彰子さんをゲストとしてお迎えします。今後宜しくお願いします。

●石巻まで石油ストーブを届けて下さった吉田光一さん、西川 博さん、寒い中遠距離を有難うございました。次回例会でのご報告を楽しみにしています。

藤田会長、林昌義、松尾(敬称略)

西川さん 1月18日、石巻まで支援に吉田さんと行ってきました。7時の新幹線で出発して、名古屋に帰ったのは夜の11時半という長い時間、吉田さんには大変お世話になりました。また、吉田さんの会社の方にもお世話になって有難うございました。

本日合計 43,000円



石巻 被災地支援



先週ご紹介頂いたように、吉田光一さんと西川 博さんが石巻のロータリークラブを介し石油ストーブを寄付されました。詳しいご報告は2月7日例会にて。

ロータリー財団ポールハリスフェロー表彰

ロータリー財団委員長 渡邊徹雄

年次寄付にご協力を頂いた岩田宏さんにポールハリスフェロー、吉田光一さんにマルチプルポールハリスフェローの表彰状と記念のバッジが届きましたので、藤田会長より伝達致しました。



卓話

「愛知県立名古屋壘学校の現状と課題」

愛知県立名古屋壘学校 校長 佐藤 賢



名古屋壘学校の現状についてお話を伺いました。



最後に生徒さんの素晴らしいからくり作品をご披露頂きました。

☆☆例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◎2月7日(木) 第843回例会 クラブフォーラム

◎2月14日(木) 第844回例会 会員卓話

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

RI 会長メッセージ 2月

(ロータリージャパンウェブより転載)

「超私の奉仕」が生み出す希望と平和

親愛なる朋友ロータリアンの皆さん、

去る12月、今年度に3回開催されるロータリー世界平和フォーラムの最初の会合でスピーチをしました。この最初のフォーラムは、「国境のない平和」というテーマのもと、「ベルリンの平和時計」があるドイツ・ベルリンで開催されました。高さ3m、重さは2tを超え、芸術作品として作られたこの平和時計の側面には、「Time bursts all walls asunder(時はすべての壁を崩壊する)」と記されています。この時計は、1989年11月9日に公開されました。ベルリンの壁が壊されたその日です。なんと素晴らしい偶然でしょうか、ちょうど西ベルリンへの境界が開かれる指示が出されたその時、時計の針が動き出しました。時計の側面に記された言葉が現実のものとなったのです。

「超私の奉仕」に国境はない

ロータリーでは、国、文化、あるいは言語によって分けるということはしません。どの国のパスポートを持っているかは問題ではありません。大切なのは、「超私の奉仕」を信じているかどうかということです。しかしロータリーでも、例えば、「このプロジェクトは自分の地域社会の人々にとって助けになるかもしれない」とか、「ドイツ、ケニア、あるいは南アフリカの人々にとって役に立つかもしれない」というように、国や地域ごとに分けて考えることがあります。時として、国境以外の分け方をする時もあります。例えば、若者を支援するプロジェクト、高齢者を支援するプロジェクト、飢餓、貧困、疾病に苦しむ人々、あるいは障害のある人々を支援するプロジェクト、という分け方をすることもあります。

しかし真実は一つ、「超私の奉仕」に国境はないということです。奉仕の恩恵は、対象となった地域社会に限られるものではありません。また、若者や高齢者、学校や施設を支援するプロジェクトも、それらだけに影響を与えるものではありません。私たちの奉仕は、人類全体への奉仕です。そしてその影響は、後の世代に受け継がれていきます。

希望から平和へ

「超私の奉仕」というのは、私たちが自分の欲を満たすより、他者のニーズを優先する道を選ぶということです。そして、他者の問題を自分の問題として捉え、手助けしたいと望むことです。

ロータリーは、安全な水の不足、栄養失調、衛生環境や保健施設の欠如といった、争いの原因となる問題に取り組むことで平和構築に努めています。このようなニーズが満たされると、さまざまな機会が生まれると同時に、希望が生まれます。希望に国境はなく、果てしなく広がっていくでしょう。この希望が広がった土壌から、平和が芽生えるのだと思います。

「奉仕を通じて平和を」のテーマを通して、私たちの中に宿る最高の資質を発揮しましょう。その資質が発揮された時、私たちはあらゆる壁を認識し、それらを取り除いていくことができるでしょう。